

奥尻町立青苗山小学校 1 日防災学校実施報告

● 奥尻町立青苗山小学校のコンセプト

- ・地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に生かす。
- ・被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解する。
- ・災害時における危険を認識し日常的な訓練等を生かして、自らの安全を確保する。
- ・自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つ。

● 時間割

1 時限 災害食づくり（6 年：家庭科）

2 時限 避難訓練（全校生徒：行事）

3 時限 北海道 Do 防災かるた（1・2 年：特別活動）

Do はぐ体験（3・4 年：総合的な学習の時間） 災害食づくり（6 年：家庭科）

4 時限 Do はぐ体験（3・4 年：総合的な学習の時間） 災害食づくり（6 年：家庭科）

5 時限 防災関係車両展示（1・2 年：生活科）（3・4・6 年：総合的な学習の時間）

6 時限 避難所運営体験（3・4・6 年：総合的な学習の時間）

〔連携・協力〕

北海道開発局、奥尻町津波語りべ隊、奥尻町食生活改善推進委員、奥尻町役場

① 防災に関する講演 	② 災害食づくり 	③ Do はぐ体験 
④ 北海道 Do 防災かるた 	⑤ 災害車両展示 	⑥ 避難所運営体験 

防災学習指導案

学習テーマ

地域の防災活動に関心を持ち、災害に備えた取組について理解を深めよう。

目標

防災関係の車両の見学を通し、防災に対する意識を深める。

学習活動

防災関係の車両を見て、説明を聞き、車両の使われ方などに興味・関心を持つ。

本時の展開

時配	学習内容・学習活動	支援（○）、留意点（●）、評価（☆）
導入 5分	・学習の見通しを持つ。・	
展開 35分	学習課題「防災に関する車両が、災害の時にどんな役目をするのかを考えよう」 	
	・車両の説明を聞く。	●興味をもって聞いているか。 ○必要に応じてメモを取る。
まとめ 5分	・学習を振り返る。	☆車両の役目が理解できたか。

評価

防災に関係する車両が、災害時にどんな役目をするのか気付くことができたか。

8月避難訓練学習指導案

学習テーマ 避難訓練をしよう

目 標 地震・津波が発生したときの、避難の仕方や災害時の行動の仕方を確認する。

学習活動 地震・津波を想定した避難訓練を行い、語り部隊の講話を聞く。

本時の展開

時 配	避難訓練の流れ	支援（○）、留意点（●）、評価（☆）
10:00 30秒後	①非常ベルを鳴らす ②地震を知らせる放送をする 「訓練です。訓練です。ただいま奥尻島で地震が発生しました。地震がおさまるまで安全な所にいてください。」 ③避難指示を出す（2回） 「地震がおさまりました。津波が来ることが予想されるので、避難して下さい。」※計時スタート ④避難する 避難経路を通り、裏山へ向かう。 ⑤整列・人数確認をする 避難してきた順に児童を整列させ、人数を教頭に報告する。 ⑥避難完了 教頭が校長へ児童の避難完了の報告 ※計時ストップ	●机の下に入り、椅子をつかませる。 ●避難経路を確認する。 ●避難指示は2回繰り返すが、状況が把握できれば、1回目の指示で避難行動を開始する。 ●事前にヘルメットの数とサイズを確認しておく。 ○裏山のロープの補助をする。
10:10	⑦ホールへ戻る カニテラスで靴を拭き、ホールへ移動する。 ⑧語り部隊（竹田彰さん）の方の講話	●ホールにて行う。
10:25	⑨避難訓練終了	☆避難の仕方や災害時の行動について理解できたか。

学習指導案

学習テーマ 「北海DO 防災カルタで学ぼう」

目 標 北海DO防災カルタを楽しみながら、防災の知識に関心をもつとともに、災害から自分の身を守る方法を知ることができる。

学習活動 北海DO防災カルタを行う。

本時の展開

時配	学習内容・学習活動	支援（○）、留意点（●）、評価（☆）
つかむ 5分	・自然災害について知る。 雨、風、雪、雷 など。 学習課題 災害から自分の身を守る方法を知ろう。	●災害について、写真を用意して視覚的にも認識できるようにする。
とりくむ 32分	・グループごとに、北海DO防災カルタに取り組む ・3グループで行う。 ・読み札は担任が読み、札とりは一斉に行う。 ・絵札を取った後、特に重要と思われる札について解説する。解説する札は16枚) ・解説する札は途中ランダムに入れる。	○グループ分けを工夫し、児童の意欲が低くならないようにする。 ●勝敗のみが目的にならないように注意する。 ☆進んで防災カルタに取り組んでいるか。
まとめる 8分	・カルタを通して新しく知ったことや大切だと思ったことを振り返る。 ・ワークシートに記入後、グループごとに発表する。	☆災害から自分の身を守る方法を知ることができたか。

評 価 防災DOカルタを楽しみながら、防災の知識に関心をもつとともに、災害から自分の身を守る方法を知ることができたか。

第3・4学年 総合的な学習の時間 指導案

（「1日防災学校」学習指導案 略案）

日 時 平成30年8月31日（金） 3・4校時

児 童 青苗小学校3・4年生 児童13名

指導者 小鹿淳一（教諭） 笹川美幸（支援員）

学習テーマ 「Do はぐ」を体験しよう

目 標 Do はぐを体験することで、避難所で生活をする際に気をつけたり考えたりすることや、自分たちが避難所で何ができるのかを考えることができる。

学習活動 グループで「Do はぐ」を体験する。

本時の展開

時配	学習内容・学習活動	支援（○）、留意点（●）、評価（☆）
つかむ 20分	・南西沖地震時の文集を読み、当時の小学生が避難所で行っていたことについて知る。 ・「避難所」についてイメージする。 説明①：本時の流れを確認する 説明②：「避難所」について、より具体的にイメージする。 学習課題 「ひなん所」で生活する時、どのように行動すればよいのか想像しよう。 説明③：「Do はぐ」のルールを説明する。	●避難所の写真を用意して視覚的にも認識できるようにする。
とりくむ 50分	・グループごとに、Do はぐに取り組む。 ・3グループで行う。 ・進行は担任が行い、一斉に行う形とする。 ・1項目について30秒で読み、判断を1分（初めの数回は1分30秒）で行うことを基本とする。 ・休み時間は休憩時間とする。	○グループ分けを工夫し、児童の意欲が低くならないようにする。 ☆進んで話し合い会活動に取り組んでいるか。
まとめる 20分	・それぞれのグループの結果を見る。 ・知っておきたいこと（要説明事項）を簡単に説明する。 ・自分が避難所に入ったら気をつけたいことと、自分ができると思った行動についてワークシートに記入後、発表する。	☆自分が避難所に入ったらどのような行動をするべきかを考えることができたか。

評 価 Do はぐを体験することで、避難所で生活をする際に気をつけたり考えたりすることや、自分たちが避難所で何ができるのかを考えることができたか。

第3・4・6学年 総合的な学習の時間 指導案

（「1日防災学校」学習指導案 略案）

日 時 平成30年8月31日（金） 6校時

児 童 青苗小学校3・4・6年生 児童19名

指導者 小鹿淳一・手塚一成・田名部紗穂里・

七戸純子・笹川美幸（支援員）

学習テーマ 避難所運営を体験しよう

目 標 避難所の模擬設営や避難所の様子を体験することで、避難所で生活をする際に気をつけたり考えたりすることや、自分たちが避難所で何ができるのかを考えることができる。

学習活動 グループで、避難所で用いられる用具を体験する。

本時の展開

時配	学習内容・学習活動	支援（○）、留意点（●）、評価（☆）
つかむ 5分	・避難所について知っていることを交流する。 ・本時の流れを確認する。 ・講師の紹介をする。	●避難所の写真を用意して視覚的にも認識できるようにする。 ※講師：役場総務課 小柳さん、石川さん 北海道危機対策課
	学習課題 「ひなん所」で使われる用具を体験しよう。	
	・グループ分けを行う。	
とりくむ 35分	・講師の話を聞きながら、簡易段ボールベッドを作成する。 ・講師の話を聞きながら、その他の避難所で用いられる用具を作成したり体験したりする。	○グループ分けを工夫し、児童の意欲が低くならないようにする。 ☆進んで活動に取り組んでいるか。
まとめる 5分	・体験してわかったこと、気づいたこと、感想を発表する。	☆避難所の用具体験から、自分なりに感想を持つことができたか。

評 価 避難所の模擬設営や避難所の様子を体験することで、避難所で生活をする際に気をつけたり考えたりすることや、自分たちが避難所で何ができるのかを考えることができたか。

第6学年 家庭科学習指導案（略案）

日 時 平成30年8月31日（金）1・3・4校時

場 所 青苗小学校6年1組教室、家庭科室、視聴覚室

児 童 青苗小学校6年1組4名、2組1名、3組1名

指導者 教諭 田名部紗穂里、手塚一成、七戸純子

奥尻町食生活改善推進協議会 土谷氏、喜久川氏

1. 教材名 「災害食を作ろう」

2. 本時案（1）目標 被災時の炊き出しを想定した調理を通して、炊き出しの苦勞と食事の大切さを知る。

（2）展 開

	学 習 活 動	留意事項、評価規準
つかむ （1校時 45分）	① 家庭生活の基本である「衣食住」を確認する。 ② 避難所や炊き出しのようすが分かる動画を視聴し、災害時に衣食住の観点から必要なことを考える。 課題 60人分の炊き出しをしよう。 ③ 『北の災害食レシピ集』を見て、「災害食」のレシピはどのようなことを大切にして作られたかを考える。さらに、扉のページを読み、その意図について知る。 ④ 身支度を整え、炊飯の準備をする。	・児童の発言から、本時は「食」に着目し、炊き出しを想定した調理実習を行うことを伝える。また、炊き出し時は衛生面にも留意しなければならないことに気づかせたい。 ・『北の災害食レシピ集』を配布し、自由に閲覧するよう促す。 ・「常温保存野菜」「缶詰」「乾物、乾燥食材」などが使われていることに気づかせる。 ・災害時にも、充実した食生活が大切であることに気づかせる。 ・家庭科室に移動し、炊飯の準備をさせる。
とりくむ （3・4校時 90分）	⑤ 身支度を整える。 ⑥ 「体も心も温まる北海道自慢の三平汁」 「おにぎり（梅）」の作り方の説明をきく。 ⑦ 安全と衛生に気をつけながら調理を行う。 ⑧ できあがった食事を視聴覚室に運ぶ。 ⑨ 手の空いた児童から片付けを行う。 ⑩ 下級生や自分たちの食事を配膳し、試食する。 ※⑩は昼食時間に行う。	・家庭科室に移動し、身支度を整えさせる。 説明：奥尻町食生活改善推進協議会 進行：田名部 評価衛生面に留意し調理している。 ・ふりかえりは後日行うことを伝える。 ・昼食時間に試食となるので、他の学年の児童等に災害食の感想をきいておく。
まとめる （後日 45分）	⑪ 炊き出しを想定した調理を経験した感想や、そのような場面で大切だと感じたことを発表する。 災害時には、調理の技能が役に立つ。また、食生活を充実させることは避難所生活を送る上で大切である。	・児童の発言を板書し、整理する。 評価前時の学習をもとに、自分の感じたことや考えたことを発言している。 ・災害時、子供であってもできることがあるという自信につなげられるようにする。 ・「ハイゼックス」を紹介する。 ・家庭でも『北の災害食レシピ集』を参考に食事づくりに取り組んでみるよう促す。